

第5回日本顕微鏡歯科学会横浜大会「Microscopic Dental Revolution !」

はまぎんホールヴィアマーレ 平成 20 年 4 月 20 日(日)

大会長 神奈川歯科大学口腔治療学講座歯内療法学分野 石井信之

実行委員長 三橋 晃

共催:カールツァイスメディテック、ヨシダ、白水貿易、メーラー(東京歯材社)、ジーシー、マニー、モリタ、ニッシン、ジャパンフォーカス、デンツプライ三金、三鷹光器、神奈川歯科大学同窓会学術

0900 開場・受付開始

0930-0935 開会の辞(大会長 石井信之)

4 月 20 日(日)、はまぎんホールヴィアマーレ(横浜市)において、第 5 回日本顕微鏡歯科学会・横浜大会(中川寛一会長、石井信之大会長)が「Microscopic Dental Revolution !」をテーマに開催し約 230 名が集まりました。本学会は、顕微鏡を用いた正確で確実な診断・治療法の開発・改良ならびに教育等により国民の健康に寄与することを目的に 2004 年に設立し活動を開始しました。



当日は特別講演 2 題、教育講演 1 題、一般口演 5 題のプログラムで、まず秋山勝彦先生(山梨県開業)の教育講演から開始されました。教育講演では歯周疾患罹患組織の軟組織審美回復を最小限の外科的侵襲で行う最新テクニックなどが紹介されました。



《教育講演》0935-1020 秋山勝彦:MODERN PERIO (座長 石井信之)

2006年に東京医科歯科大学で行われた第3回日本顕微鏡歯科学会の特別講演で、私は歯周病治療に顕微鏡を用いる事により歯周病治療の常識が変わるかもしれないと先生方にお話しました。今回の講演では、私の治療を2006年の講演前と2006年の講演後の治療、今まさに私が行い始めている治療の3つのセッションに分けてケースプレゼンテーションします。あれから2年経過し、顕微鏡を応用した歯周病の治療は今までの歯周病治療の常識を変える可能性があるのか考察します。判断するのはご参加の先生方です。

1020-1030 休憩

一般口演では、上顎洞粘膜の剥離挙上、ポストおよびコア除去、MTAを活用した根尖内穿孔の充填、歯根垂直破折への対応など、顕微鏡を活用した多彩な発表が行われました。

《一般口演1:座長 中川寛一》

1030-1045 ①上顎洞粘膜の剥離挙上をインプラント埋入窩から直接行った症例について ;吉田格(吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック)

前回演者は「自家歯牙移植のための上顎洞開窓を顕微鏡下にて歯槽頂側から行った症例について」と題し、ラテラルアプローチやソケットリフトとも異なる上顎洞挙上法について症例供覧と考察を行った。今回は移植窩よりさらに小さい、インプラントのための直径4mmの窩洞から直接上顎洞開窓と洞粘膜剥離挙上を行い、同時にインプラントを埋入し良好な結果を得た。施術にあたっては顕微鏡が必須であるためその概要について報告したい。

1045-1100 ②マイクロスコープ下でのコア除去についての比較検討;武井則之(医療法人 こたけ会 武井歯科クリニック)

日常の臨床において、様々な理由でコアを除去することは多いが、メタルコアのポストが非常に長いものはポストの先端までバーが届かなかったり、バーの先端部が大きすぎてピンポイントで切削できない。なお、鉗子や専用のインストゥルメントもあるが、使い方によっては歯質や歯槽骨にダメージを与えてしまう。さらに、ファイバーコアやレジン系のコアはその色調が歯質と類似しているために、肉眼では正確に視認できずに非常に苦慮する。また、なによりも肉眼による切削による除去法は健全歯質を必要以上に削除している可能性は否めない。今回、マイクロスコープ下で残存歯質に最もダメージを与えないコアの除去方法を比較検討したので、その一部を報告する。

1100-1105 休憩

《一般口演2:座長 山口正孝》

1105-1120 ③マイクロスコープを用いた根管内穿孔部の充填術式;山口博康(鶴見大学歯学部附属病院総合歯科2)

根管内の穿孔部の処置は、軟化象牙質の確実な除去、止血、封鎖が重要である。また穿孔部を修復する際、歯周組織とインスツルメント等の接触および接着術式における化学的刺激により、出血を伴う。そのため、確実な封鎖操作には止血およびマイクロスコープ下の操作で確実な接着術式が必要となる。今回我々は、止血操作の難しい根管内においてマイクロスコープ下で半導体レーザーを用いた根管穿孔部の充填術式について報告する。

1120-1135 ④Mineral Trioxide Aggregate を用いて穿孔部封鎖を行った一症例; 鹿熊 豊(桐原歯科医院) 穿孔は歯内療法やポスト形成に伴って生じる偶発症であり、その結果として治療歯の予後を悪化させ抜歯にいたらしめることがしばしばある。穿孔部を封鎖する材料としては 1993 年に Torabinejad らによって開発され、近年日本でも認可が下りた Mineral Trioxide Aggregate (以下 MTA, 商品名プロルート MTA, デンツプライ三金) が優れた封鎖性、生体親和性の高さから注目を集めている。またマイクロスコープ下での処置は穿孔部に対する正確かつ緊密な封鎖を可能とした。今回、髓床底に穿孔を起こしている上顎大臼歯に対して、MTA を用い顕微鏡下で穿孔部封鎖を行い良好な経過が得られた症例を報告する。

1135-1150 ⑤歯根垂直破折への挑戦; 辻本恭久, 川島 正, 小塚昌宏, 三浦 浩, 松井 智, 安念素代, 石井 信之 *

(日本大学松戸歯学部歯内療法学講座 * 神奈川歯科大学口腔治療学講座歯内療法学分野)

歯根が垂直破折してしまうと、ほとんどの症例において抜歯が適応となる。その後の処置としてインプラント、ブリッジ、義歯等が選択される。しかし抜歯を希望しない患者さんには、意図的再植術を基本とした、破折部の接着が試みられている。われわれは MTA を使用し破折歯の温存を図る試みを行っているが、マイクロスコープを有効利用することで、処置が正確に行える。これまでの症例から今後の展望を考察したい。

《昼食・休憩・業者展示》

1230-1250 総会(司会; 辻本恭久)

《特別講演1》(座長; 三橋 純)

特別講演1は、Adrian McGregor 氏(アメリカ顕微鏡歯科学会会長)が“Fundamental of Periodontal Microsurgery”と題し講演、モニター画面を見ながらの拡大明視野下の軟組織審美回復治療に触れ、次世代診療の流れを確信しました。

1300-1430 Dr.マクレガー講演 "Fundamental of



Periodontal Microsurgery’ ’

Solving the esthetic challenges we encounter daily during periodontal and implant treatment with minimal trauma requires an ever more demanding level of precision. Periodontal Microsurgery has played a pivotal role in achieving treatment outcomes never thought possible before with conventional surgical techniques. Examples of innovative techniques for soft tissue grafting, esthetic anterior crown lengthening are presented to demonstrate how a microsurgical approach can enhance the results to new levels of excellence.

•Learning objectives:

- To define the surgical factors that lead to tissue trauma.
- To understand the essential parameters required to avoid trauma.
- To present the principles of a microsurgical approach to treatment.
- To demonstrate with clinical examples the outstanding outcomes that is possible to achieve with microsurgery.

1430-1450 休憩・業者展示

《特別講演2》（座長：井澤常泰）

特別講演2は、Syngcuk Kim 教授（ペンシルバニア大歯内療法学講座）が、“The Microscope and Endodontics”のタイトルで顕微鏡下での歯内療法を解説し、特に外科的歯内療法の第一人者としてマイクロサージェリーによるプレゼンテーション、さらには MTA セメントによるリカバリー治療を紹介し参加者は熱心に聞いていました。



1450-1620 Dr.キム講演 “Microscope and Endodontics’ ’

•Among the many advancements in endodontics during the past decade the introduction of the microscope and of MTA stand out. Since the introduction of the microscope in 1990, endodontic treatment approach and techniques have changed fundamentally and dramatically in the USA.

•In conventional endodontics, the use of the microscope allows clinicians to easily locate 4th canals in molar teeth, to identify microfractures clearly and, in general, to provide more precise and complete treatments.

•In surgical endodontics, the benefits of using the microscope are even more important: 1. The size of osteotomies is much smaller 2. The resected root surface reveals numerous anatomical variations including isthmus, that frequently are the cause of periapical pathology 3. The root-end preparations and root fillings are precise, significantly reducing the failure rate. In fact the success rate of microsurgery in endodontic is over 90%.

•Using each of these beneficial features has elevated endodontics to significantly higher and therefore more clinically successful level. The microscope has become an essential instrument for the endodontic specialty practice in the USA. There is a consensus among clinicians that the current level of excellence in endodontics could not have been attained without the proper use of the microscope.

•In this presentation the key principles of surgical and non-surgical endodontics, as related to the microscope, will be discussed. Another important advancement is the use of MTA in endodontics. At present MTA is THE endodontic material of choice in USA for root-end fillings, repair of perforations, apexification, pulp capping and apexogenesis. This enthusiastic acceptance of this material is based on solid biological research data showing extraordinary healing and compatibility with dental tissues. This presentation will cover the genesis of MTA from bench top experimentation to stem cell research to clinical applications.b

1620-1630 閉会の辞(次期実行委員長 山口正孝)

日本顕微鏡歯科学会は学会認定医制度の発足に向けて準備が進んでおり、国民の高度な歯科治療のニーズに応えられるように活動を継続していきます。

